

こうばる 川原にダムをつくらないでください。 私は川原が大好きです。

2019年9月19日 5年ぶりの知事との面会



2019年9月19日は強制収用の期限とされ、この日の24時をもって、石木ダム反対の13世帯が所有する土地と家屋の所有権が国へ移された。13世帯の全世帯が補償金の受け取りを拒否している。



中村法道長崎県知事

この9月19日に中村法道長崎県知事との面会が5年ぶりに行われ、住民らが必死の思いで強制収用の中止を訴えたが、心が通じる相手ではなかった。

知事との面会では、小学3年生の炭谷沙桜ちゃんも自身で考えたメッセージを読み上げた。事前に両親から面会の話を聞かされ、3人きょうだいの長女として知事に手紙を渡したいと思ったという。前夜には大きな声で話す練習を自宅で行い、読みやすい大きな字で手紙を綴った。炭谷沙桜ちゃんは手紙を読み始める前から表情を崩し、涙をこぼしながら、一節ずつメッセージを読み上げた。知事は沙桜ちゃんには顔を向けることなく下を向いたままだった。

村山嘉昭氏のブログをもとに編集しました。 <https://muracame.com/190923-blog/>

石木ダムの情報はこちら

石木川まもり隊のページ <http://ishikigawa.jp>

水源連 石木ダムのページ <http://suigenren.jp/damlist/dammap/ishikidam/>

石木ダム建設絶対反対同盟

連絡先：電話 0956-82-3453（岩下和雄）
〒859-3603 長崎県東彼杵郡川棚町岩屋郷 249-1

石木ダム建設絶対反対同盟を支援する会

連絡先：電話 045-877-4970（遠藤保男） 〒223-0064 横浜市港北区下田町 6-2-28

ダム予定地の人たちは いつから闘い続けているのですか。

ことの始まりは1972年です。半世紀近くも13世帯の住民は、「聞か猿」のやぐらを建てて石木ダム事業に対して不退転のたたかいを続けています。今も連日、ダムと関連工事にストップをかける行動に取り組んでいます。



水没予定地に立つ聞か猿

■石木ダムの経緯

1972年	長崎県、「建設の必要が生じたときは改めて同意を得る」という覚書を地元と交わして、予備調査を開始
1982年 5月	長崎県が機動隊を伴った強制立ち入り調査、反対同盟が実力阻止
2009年 11月	長崎県が強制収用のための事業認定を九州地方整備局へ申請
2013年 9月	九州地方整備局が付帯意見を無視して事業認定
2015年 8月	長崎県、第1次収用裁決処分対象地を強制収用 長崎県、完成予定を6年延期(2016 → 2022年度)
11月	反対地権者ら、石木ダム事業認定取消訴訟を長崎地裁に提訴
2017年 3月	反対地権者ら、石木ダム工事差止訴訟を提訴
2018年 7月	長崎地裁、事業認定取消訴訟で原告敗訴の判決。地権者らが控訴
2019年 9月19日	長崎県がすべての土地と住居を収用
9月	長崎県、完成予定年度を3年延期(2022 → 2025年度)
11月18日	住居とその土地の明渡期限。13世帯は明渡しを拒否して生活を維持
11月29日	福岡高裁、控訴人敗訴の不当判決。地権者らが上告



13世帯が住んでいる 石木川流域は 自然の宝庫です。

石木川にたくさんの魚たち
(メダカ、ヤマトシジミは絶滅危惧種)、
石木川の周辺に数多くの野鳥
(カワセミも生息)、
石木ダム予定地ではゲンジボタルが乱舞。



石木ダムは治水・利水の両面で不要です！

■ 川棚川で必要とされている治水対策は石木ダムではありません

川棚川では 100 年に 1 回の大雨に対応するために石木ダムが必要だと長崎県は説明していますが、石木川は川棚川のかなり下流で合流するので、石木ダムより下流になる流域面積は川棚川の全流域面積の 8.8% しかありません。

さらにその中には堤防高が非常に低く、氾濫の危険性が高い川棚大橋下流の最下流部（港湾管理者の管理区間で、堤防整備の計画がない）などがあり、実際に石木ダムで対応するのは川棚川流域の 4～5% にすぎません。

そのため、近年頻発する大豪雨が川棚川流域で降れば、石木ダム後も流域の各所で氾濫することになります。川棚川流域で危ないところをピックアップして堤防嵩上げなどの対策を早急に講じる必要があります。長崎県は川棚川流域の住民の生命と財産を本当に守ることができる治水対策に力を注ぐべきです。



■ 佐世保市水道にとって石木ダムは無用の長物です！

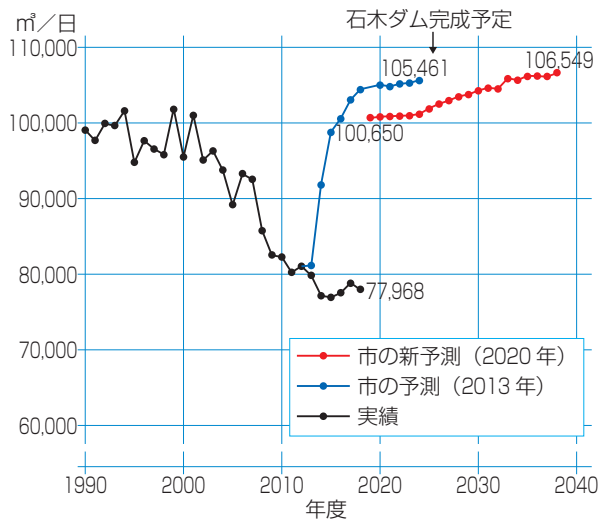
佐世保市水道の一日最大給水量は 2000 年代になってから、ほぼ減少の一途を辿り、2018 年度は 1994 年度の 77% まで減りました。佐世保市水道は保有水源を正しく評価すれば、約 10 万 m³ / 日ありますので、水需給には十分な余裕があります。

今後は佐世保市の人口が減っていくので、給水量が縮小の一途を辿っていくことは確実です。この給水量の縮小に伴って、2007 年度渇水のような渇水が再来しても、佐世保市は給水制限なしで対応することが可能になっており、今や渇水に強い都市になっています。

ところが、佐世保市は図のとおり、実績を全く無視して、給水量が 10 万 m³ / 日以上まで急増するという架空の水需要予測を行って、石木ダムの水源が必要だという話を作り上げています。

必要性のない石木ダムとその関連水道施設のために佐世保市民は多額の費用を負担させられつつあります。

図■ 佐世保市水道の 1 日最大給水量の実績と市予測 (佐世保地区)



出典：佐世保市水道局の資料。2015年度は2016年1月25～28日の寒波による給水管凍結・破裂に伴う給水量の異常値を除く。

いしき

石木ダム

は、長崎県が川棚川の支流・石木川に計画している
総貯水容量 548 万 m^3 の多目的ダムです。事業費は関連の水道施設整備も含めると、
約 538 億円（国庫補助金を含む）にもなります。

石木ダムストップのたたかい

長崎県が付替道路の工事を強行していますので、現地の皆さんは、連日、朝早くから工事現場に座り込み、身を挺して工事の中止を求めています。

長崎県はダムの必要性についての対話を拒否し続け、土地収用法を適用してすべての土地と 13 世帯の住居を収用してしまいました。13 世帯の皆さんは毅然として明渡しを拒否し、これまでの生活を貫いています。

そして、裁判でもたたかっています。「石木ダムの必要性はなく、公益性がないとして土地収用の事業認定の取消を求める訴訟」と、「不要な石木ダムの工事差止めを求める訴訟」です。

事業認定取消訴訟は一審、控訴審とも不当判決でしたので、2019 年 12 月 10 日、最高裁に上告しました。工事差止め訴訟の一審の判決は今年 3 月 24 日です。
一方、石木ダム事業は 13 世帯の反対により、遅れに遅れ、2019 年 10 月に工期が 2025 年度まで延長されました。しかし、完成の見通しがあ
るわけではありません。

県、代執行「排除せず」



長崎・石木ダム

反対派なお断念求める

石木ダム事業が進む長崎県川棚町には、反対する住民がいる一方、さまざまな事情で用地を明け渡し、移転した人々もいる。故郷に残った住民が土地の明け渡しを突きつけられ、同じ集落に住んでいた元住民は割り切れない思いを吐露した。ダムが計画される川棚地区で、機を移めた80代男性は、かつて川棚の思いを一つ（する）と反対運動の先頭にいた。1982年、県が機動隊を投入して用地測量に踏み切った時、彼は鮮やかに佐世保市に搬出され、機動隊の侵入を阻止した。その後、長崎県佐世保市に搬出された。11月18日午後、長崎県佐世保市や支庁。

長崎県と佐世保市が「拒否として排除しない」との考えを示した。県は18日、川棚町には18日、立ち退き拒否世帯の宅地を含む全ての事業予定地が、県収用委員会の定める明け渡し期限となった。反対派はこの日、県に事業断念を要請したが、平田研昭知事は住宅などを強制的に撤去する行政代執行について「遠くまで移転した人々もいる。故郷に残った住民が土地の明け渡しを突きつけられ、同じ集落に住んでいた元住民は割り切れない思いを吐露した。ダムが計画される川棚地区で、機を移めた80代男性は、かつて川棚の思いを一つ（する）と反対運動の先頭にいた。1982年、県が機動隊を投入して用地測量に踏み切った時、彼は鮮やかに佐世保市に搬出され、機動隊の侵入を阻止した。その後、長崎県佐世保市に搬出された。11月18日午後、長崎県佐世保市や支庁。

「みんな家族」強

明け渡し期限 移転住民複雑

「みんな家族」強

西日本新聞 2019年11月19日

あなたの声が石木ダムを中止できる！

ダム水没予定地 13 世帯は、この無用のダムのために、3 代にわたって半世紀も苦しめられ続けてきました。「ただここに住み続けたいだけ！」という思いで明渡しを拒否しています。そこにはこれまでに培われてきた素晴らしい地域社会とそれをはぐくむ自然があるからです。

石木ダムを中止できるのは石木ダムの起業者である長崎県知事と佐世保市長です。起業者に中止を判断させて、13 世帯の皆さんを無用な石木ダムから一刻も早く解放しましょう。

下記の抗議・要請先へ是非、あなたの声を！

抗議・要請先

長崎県知事 中村法道

〒 850-8570 長崎市江戸町 2-13
電話 095-824-1111（代表）

佐世保市長 朝長則男

〒 857-8585 長崎県佐世保市八幡町 1-10
電話 0956-24-1111（代表）